

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見			
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性				
指標1	立寄台数	万台/年	0.5	39.0	22.0	確定	見込み	△	あり	なし	19.7	H24年10月	△	前面道路の国道185号のセンサス交通量がH17年からの5年で大きく減少していることに加え、事後評価時は夏休みシーズンで、平日でも多くの車両が立ち寄ったが、今回は一般的な平日であったため、前回よりも減少した。また、伝建地区等への観光客の増加とはトレードオフで駐車場への占用時間(滞在時間)が長くなったことなどから、事後評価時よりも大幅に減少した。	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input checked="" type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	国道185号の交通量は大幅に減少したものの、休日の立寄台数は、昼前後のピーク時には満車となり車列ができていたことから、事後評価値を下回ったものの一定の評価はできる。
指標2	入込観光客数(事後評価による独自算出)	万人/年	55.0	66.0	64.6	確定	見込み	△	あり	なし	72.0	H24年4月	○		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	道の駅、町並み保存地区への誘導サイン等の本事業の完成により、来訪者の円滑な誘導が図れたため、大幅に増加した。
指標3	入館者数	人/年	21,607	26,000	22,474	確定	見込み	△	あり	なし	32,290	H24年11月	○		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	道の駅、町並み保存地区への誘導サイン等の本事業の完成により、来訪者の円滑な誘導が図れたため、大幅に増加した。
指標4						確定	見込み		あり	なし		H 年 月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる		
指標5						確定	見込み		あり	なし		H 年 月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる		

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見		
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性			
その他の数値指標1	道の駅施設利用者数	万人/年	2.5	34.4	確定	見込み	●	△	あり	なし	38.9	H24年10月	△	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	道の駅施設の完成にともない、県外や市外からの来訪者の休憩地点としての利用だけでなく、地域住民が地元産品を購入する場としても機能したため、増加した。
その他の数値指標2	災害時における避難所の収容人口カバー率	%	46.2	53.4	確定	見込み	●	△	あり	なし				<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	道の駅施設利用者の避難場所であるが、災害時の一次避難拠点としても、収容人口のカバー率の向上に貢献した。
その他の数値指標3	伝建地区内における入込観光客数	人	27,278	35,408	確定	見込み	●	△	あり	なし	48,917	H24年4月	△	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	道の駅、町並み保存地区への誘導サイン等の本事業の完成により、来訪者の円滑な誘導が図れたため、大幅に増加した。また、人気アニメ「たまゆら」のイベント開催などの影響もあり、大幅に増加した。

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

## 2. 今後のまちづくり方策の検証

### 様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した今後のまちづくり方策(事項)	実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項	
<ul style="list-style-type: none"> <li>成果を持続させるために 行う方策</li> </ul>	側溝蓋の維持・管理	地域住民による定期的な清掃活動 定期パトロールの実施	定期的な清掃活動により美観が保たれている。 パトロールの実施により早急な対応が可能となった。	今後も継続的に側溝蓋の適切な維持管理に努めるとともに、美しい景観維持にも努める必要がある。
	道の駅の維持・管理	道の駅の維持管理については、平成24年4月から民間のノウハウを活用するとともに経費節減を図るため、市直営管理から指定管理者に移行。	指定管理者移行後も施設の適正な維持管理に努めている。民間のノウハウを活用し、各種イベントの開催(父の日、母の日、利益還元セール、夏まつり)、外観に竹のモニュメントの設置、イベント広場にアイスクリームハウスを設置するなど利用者ニーズを踏まえた利便性向上や道の駅の魅力向上に努めている。	今後も継続的に道の駅施設のハード的な維持・管理を図る必要がある。 今後とも定期的に施設利用者へのアンケートを実施し、道の駅の維持・管理をする上でニーズをきめ細かく反映する必要がある。
	誘導サイン(案内サイン)の維持・管理	定期パトロールの実施	パトロールの実施により早急な対応が可能となった。	今後も継続的に誘導サイン(案内サイン)の維持・管理を図る必要がある。
	「憧憬の路」イベントの継続	江戸時代の繁栄を今に伝える古い町並みを竹筒からあふれるろうそくの灯りで幻想的にライトアップする「たけはら憧憬の路」を10月27日・28日の2日間開催	アニメ「たまゆら」とコラボし、トークイベントや物販などを実施したため、県内外から多くの若者に訪れていただいた。このことは、本市の認知度やイメージアップにつながったものと考えられる。	今後も多様なメディアを活用して積極的にPR活動を実施する必要がある。
<b>改善策</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>まちづくりの目標を達成するための改善策</li> <li>残された課題・新たな課題への対応策</li> <li>その他 必要な改善策</li> </ul>	地域と連携した防災力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>「道の駅」を活動拠点とする自主防災組織の母体となる住民自治組織の設立に向けた意見交換会を開催した。</li> <li>防災拠点としての備蓄機能の整備を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後の防災活動の柱を決定して、年度末の組織設立が目標に定められたことにより今後の地域防災体制の強化が期待できる。</li> <li>災害時の備蓄非常食や物資の確保が可能となり、災害に対する備えが強化され、地域における安心感が増した。</li> </ul>	今後も継続的に、自治会や地域にある既存組織等と連携し、地域防災力の向上を図る必要がある。
	駐車場の確保	指定管理者において、土、日祝日に交通整理員を配置するとともに、市職員駐車場を臨時駐車場として開放している。	ピーク時には駐車場待ちの車列が確認された。臨時駐車場が、道の駅から若干離れていることもあり、車両の中には立ち寄り断念した車両が多数存在したと考えられ、臨時駐車場の利用の向上に繋がっていないように思われる。	今後も継続的に臨時駐車場等への案内・誘導は実施する必要があるが、抜本的な解決にはつながらないことが想定されるため、近隣の観光施設との有機的な連携を図るとともに、送迎シャトルバス等の運行を検討する必要がある。 また、観光施策により魅力が向上し、観光客は増加したが、今後はあわせて受け入れ体制の整備が重要な課題である。
	伝建地区および町並み保存センターの魅力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史的風致維持向上計画の認定に向けた調査を実施した。</li> <li>地区住民・市民を対象に重伝建選定から30周年を迎える伝建地区の価値を再認識する場として、記念事業を開催した。事業にあわせ、広報の連載や古写真の展示、伝建地区の見所や魅力を分かりやすく紹介する記念誌を作成した。</li> <li>毎月1回、町並み保存センターにおいて、住民団体である竹原町並み保存会主催の「昔話座談会」を開催。(保存会の活性化)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成24年6月6日に竹原市歴史的風致維持向上計画が国から認定を受けた。</li> <li>伝建地区の観光客数や町並み保存センターの入館者数が大幅に増加するなど、定量的な効果があった。</li> <li>伝建地区で、保存活動を行っている住民で組織する竹原町並み保存会の活動が高齢化により低下している。この状況を受け、昔話座談会を開催し、歴史の記録、景観への意識付けや保存会主催事業の開催による活動の活性化を図った。市は、古写真の収集等全面的にバックアップを行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後は、伝建地区周辺部に存在する伝統的建造物の保存修理等の実施により伝建地区と一体となった周辺部の歴史的景観の保全を図り、伝建地区の価値を高めていく必要がある。また、本計画において、既存施設を含めた文化施設のあり方を検討していく必要がある。</li> <li>今後は、伝建地区の魅力向上に向け、講演や記念誌の内容を活かしたパンフやHPの作成など伝建地区の魅力を知りやすさを検討していく。</li> <li>今後は、収集した記録、写真等を活用して、町並み保存センターの展示の充実へつなげていく必要がある。</li> <li>上記の課題とは別に、今後は来訪者に向けて、景観マナーに対する啓発活動を実施し、地区内では住民主体の清掃活動を継続的に実施する必要がある。</li> <li>また、地区内の魅力向上に向けて、意見交換会の実施や来訪者の意見等を反映できる仕組みを確立する必要がある。</li> </ul>
	道の駅と伝建地区をつなぐ快適な歩行空間確保	地域住民による定期的な清掃活動	定期的な清掃活動により美観が保たれている。	今後も継続的に、道の駅と伝建地区をつなぐ歩行者道の路面の維持管理を図るとともに、美しい景観維持にも努める必要がある。
	イベント「憧憬の路」の魅力向上	江戸時代の繁栄を今に伝える古い町並みを竹筒からあふれるろうそくの灯りで幻想的にライトアップする「たけはら憧憬の路」を10月27日・28日の2日間開催。広島カーブと連携し、マツダスタジアムで「憧憬の路」イベント開催(9月の2日間で3,000人以上来場)	アニメ「たまゆら」とコラボし、トークイベントや物販などを実施したため、県内外から多くの若者に訪れていただいた。このことは、本市の認知度やイメージアップにつながったものと考えられる。	今後も広域観光体制を充実し、継続的に多様なメディアを活用したPRを実施していく必要がある。 若い観光ボランティアを育成していく必要がある。

事後評価シート 添付様式5-③から転記

### 様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項
竹原港の再編による道路利用者の立寄り拠点の確保	当該地区からはやや離れるが、国道185号沿線に、竹原港を再編し、道路利用者の休憩機能等を補完する交流ターミナル、駐車場、大型バス待機場を整備する予定。	H26年度頃	道の駅たけはらは違う立地条件を活用し、異なるサービスを提供できるターミナル機能整備、運営、また道の駅たけはらを補完する駐車場整備、大型バス待機場整備等を実施し、お互いの施設が連携することにより相乗効果を発揮することが重要である。